チーム紹介文

高校の文化祭で大掛かりなジェットコースターを作るも、ほとんど誰にも評価されなかった悔しさを晴らすべく、当時のメンバーが7年の時を超えて集結！

男子校出身の個性あふれる4人が、当時の楽しさを思い出しながら当レースへの出場を決意し、最高のレースとパフォーマンスを完遂することを誓う。

村瀬

一度は却下されたかと思われたジェットコースター企画を拾い上げ、実現にこぎつけさせた。彼の人望なくして企画が通ることはなかっただろう。その後のコース・車両制作でも大きな役割を果たし、パフォーマンスやアイデアにも事欠かない！

柘植

当時はジェットコースターの回路設計を担当。ここだけの話だが、その時作った回路は使い物にならないものだった。ところが、その後大学で経験を積み、NHKロボコンで優勝までしてしまった。今となっては正真正銘の電子回路屋さんだ！

清谷

ジェットコースターの企画の言い出しっぺ。文化祭が大好きで、他にも高さ7mに及ぶ入口の門やプラネタリウムなど、ある面では他を圧倒する企画を進めてきた。当レースでも当然、他を圧倒するつもりで企画を進める！

一光

当レースに出場するきっかけとなった最重要人物。当時の文化祭ではクラスが違ったが、今回はレースで運命を共にする。実家が田舎という強みを生かし、作業場所と資材を豊富に持つ彼をなくして企画の成功はない！

[こたつ]

コンセプトは「史上最強のこたつ」

「こたつから出たくない冬、こたつごと移動できたらいいのに…」

この願いをかなえるため、この自走できるこたつは企画された。こたつの基本性能である温かさはもちろんのこと、速度と障害物をもろともしない走破性能を兼ね備えるべく、チーム一丸となって全力で設計と試行錯誤を行う。

2人が向い合せで座り、サイドには同乗者が配置される。

[夫婦岩]

チームの4人が共有する思い出、遠泳に挑戦する学校行事「水練会」をモチーフとしたカートだ。会場の海岸にあった「夫婦岩」をかたどり、当時の恰好である褌と赤白帽子で疾走する。この格好と大きな岩が高速で駆け抜けるインパクトは大きいに違いない。

* 褌は、ガイドラインに沿うように着用する。